

第1回 北九州市・新ビジョン推進会議の開催結果

日時 令和6年10月9日(水) 10:30-12:00
場所 リーガロイヤルホテル小倉
議題 北九州市・新ビジョンの推進について
出席者 全11名中9名出席

氏名	所属・役職
岩淵 丈和	URBANIX(株) 代表取締役 九州大学大学院人間環境学府・都市設計研究室博士課程 Z世代課パートナー
内田 晃	北九州市立大学 副学長 地域戦略研究所 所長
高宮 歳継	北九州市自治会総連合会 会長
津田 純嗣	北九州商工会議所 会頭
永田 昌子	産業医科大学医学部 准教授
深谷 裕	北九州市立大学 地域戦略研究所 教授
松永 守央	(公財)北九州産業学術推進機構 理事長
松本 真理子	九州女子大学人間科学部 講師
宮坂 春花	(株)Mahal.KitaQ 代表取締役
三谷 康範 (欠席)	九州工業大学 学長
森下 浩文 (欠席)	日本銀行 北九州支店長

議事要旨

議題 北九州市・新ビジョンの推進について

【論点1：新ビジョンに基づく取組の展開状況を踏まえ、評価すべき点、見直すべき点について】
及び【論点2：今後、さらに強化・展開すべき取組等について】

- 主なKPIや施策を紐付けることで各年度の方策はわかるが、この中のこれだという位置づけ、将来5年後や10年後の姿をイメージできる形にした方が良いのではないか。
- プロジェクトを実施するときは、予算のついた部分だけを評価するのではなく、全体を評価しながら前に進め、どうやってできるのかというところを意識していただきたい。
- プロセスに関して、KPIの進捗を図る仕組み、PDCAが回る形を考え、各部門で実施した事業を統括して見るということを検討した方が良いのではないか。
- 20代や30代などの若い人への取組はよくやっていると聞いているが、北九州市には元気な高齢者が沢山いる。そういった高齢者を対象とした施策も取り入れていただきたい。
- 他都市から来た学生に北九州市に残ってもらうことや、他地域の大学に行った学生が北九州市に戻ってくる、あるいは全く北九州市に縁のない関東や関西の大学に行っている学生を呼び寄せることは非常に重要なポイント。
- エリアの連帯性。例えば、小倉駅の北口と南口とで連帯してエリアの価値をつくっていく観点は、まだまだ可能性の余地があるのではないか。
- データの観点。まちづくりのデータを数値的に評価して、エリアマネジメントに応用させていくような観点を入れることで、老朽化している建物など、リスク管理にも繋がり、国内外の潮流を見ても非常に北九州市にとっても効果的なのではないか。
- 「スクラップアンドビルド」というのは、少し古くなってきていると感じている。既存の建物施設を活かしたあたらしいまちづくりの先行事例をつくる、というような北九州市ならではの良さを活かした打ち出し方をしても良いのではないか。
- 若い人が企業を選ぶ理由に、健康経営の観点があると言われている。今回、健康経営の企業数というのを「稼げるまち」の主なKPIに挙げていただいたことは大変良いと考える。
- 健康寿命について、要支援2以上は不健康であるということを仮定して、要支援2のデータを使った指標を入れることで、より施策との関連付けがなされるのではないか。
- 福祉領域では近年、人材の確保、サービスの質の向上ということが課題になっているため、「稼げるまちの実現」の施策No.16やNo.17、或いは、「安らぐまちの実現」の施策No.16といった取組については、時間がかかることではあるが、積極的に進めていただきたい。

- 刑法犯認知件数について、刑法犯に多く含まれるのが、孤立した孤独な高齢者による窃盗といった事件である。その背景には、高齢者の問題ということが挙げられる。そこで、高齢者の福祉に関するKPIを1つ、含めていただければ良いのではないか。
- 不登校や心理的な課題を抱える生徒の増加が全国や北九州市で問題となっている。教育・福祉、医療という異なる領域の連携が上手くいっていないという声を耳にする。数字の指標では評価しにくいということだと思うが、例えばスクールソーシャルワーカーを増やすといったコーディネート機能を高める工夫をして、問題の早期発見、効果的な解決につなげていただけたら良いのではないか。
- 経済の活性化最優先は大賛成であるが、成果指標がすでに古くなっているのではないか。雇用者報酬が2033年度で500万円とあるが、今年の春闘の結果などを考えると、来年にも超えてくる数字ではないか。早急に見直ししていただく必要があると考える。経済の活性化している地域は、やはり消費が主体であり、給与が大変重要なファクターであるため、大きな高い目標を持って取り組んでいただきたい。
- 施策を見ると、それぞれ関係はしているが、バラバラに書いてあるといった項目が散見される。当然施策の上では連関関係があるため、キーワードで関連する部分については担当する部署が常に連携していかなければ、業務が重複し、ロスが出る。最近のAIで整理することで、ロスを減らすことができ、それが結局、小さな市役所につながる。そういうものを市役所としては取り組んでいただく必要がある。
- 施策の項目を見ると、実践するのは民間だというのが結構見受けられる。そこはやはり民間への移譲をしていくことが必要ではないか。
- 子どものウェルビーイングそのものが測れるような指標があると良い。ぜひ、子どもの生活満足度というものを入れていただきたい。既に北九州市では、令和5年度に子どもの生活満足度のデータを取っているが、小5、中2、高2、また、特別支援学校のお子さんや、教育支援室、不登校のお子さんたちにも対象を広げ、満足度を取っていただけたらありがたい。
- 子どもの自己肯定感について、今後、SDGsから社会の目標がSWGs、サステナブルなウェルビーイングのゴールに向かっていくと考えられるため、客観的な指標だけでなく、子どもの主観評価ということを入れていただきたい。
- 注視する主な分野に女性活躍があるが、KPIに入っていない、KPIを出さないと女性活躍にどう取り組んでいるのかということが評価しにくいのではないか。
- 北九州市の大学生は海外に出る機会が少ないと感じる。学生期から海外に出る機会をもっと持ってもらうことで、インバウンドの事業、観光事業に結び付けられると考える。

- K P I 項目を設定する際に、項目ごとに誰に向けているのかを想定し、その主体の立場になって、それで行動が本当に生まれるのかを考えてみる工程を加えて K P I を設定すればわかりやすくなるのではと思う。
- 貨物取扱量（港）を増加させていくためには、港湾沿いの産業道路の整備を進めるなど、民間投資により増えてきた倉庫などの物流施設をしっかりと活用し、さらに使い勝手の良い流通拠点にしていくことが重要だと考えられる。この点、物流拠点の利用度や賃料といった指標をモニターするとより良いのではないか。
- 歩行者通行量について、小倉城や駅北の施設と小倉中心部間の観光客などの回遊人数増加が「稼げるまち」の観点からも重要だと思われる。例えば、紫川にかかる橋を渡る人流を G P S データなどでモニターすることも一案と考えられる。なお、関連して、インバウンド観光客数を伸ばす場合には、ハラルフードの積極広報、英語ツアーの充実も重要と考えられる。

【論点3：新ビジョンの周知・浸透について】

- 全体像を見る市民はそういないと思う。自分の興味のあるところしか見ない。北九州市の強さというのをもう少し入れた上で、良いところをとにかく前向きに出すという形のを様々な場面で示していただきたい。
- 国外への発信という観点も含めて、K P I を設定したときに、例えば脱炭素の目標などは日本の他地域と比べても非常に北九州市は高く評価されている。
同じ方向性でまちとして向かっている地域と組んで発信していったらどうか。国外にも伝わりやすいし、北九州市の国外からの評価も伝わりやすい。
- 北九州市は新ビジョンや未来戦略、振興戦略、成長戦略など様々な分野・観点で計画を進めている。それぞれの相互関係性をわかりやすく整理し、ホームページなどで公表することが、一層有益と考えられる。